サービスラーニングから学んだこと

活動先：NPO 法人　孝行の会
クラス：松下　典子　先生

1．自分の成長と気付き

孝行の会で活動をしてから、自分自身の甘さに気づくことができた。
企画を行うにあたって、利用者を一番に考えず楽なほうに楽なほうにといっていた。それに対して、会長に指摘していただき、サポートしてもらいながら企画を行うことができた。企画を通して、活動前に会長が言った“人に喜んでもらうことが自分自身の幸せ”という意味を肌で感じ、NPO の考えに触れられたのだと考え、充実感が得られた。利用者の方や職員、会長とコミュニケーションをとった際に、「今の環境に感謝しなさい」と言われた。この言葉に、今の私があること、今回の企画を最後までやれたことは、自分たちだけの力ではなく、周囲の人の支えがあったから行えたのだという考え方ができるようになったと感じた。

また、活動してみて、自分からコミュニケーションをなかなかとることができなかった。活動当初は利用者の方と沈黙した場面が何度もあった。それまでは、自分からコミュニケーションをとることは容易であると考えていた。また、ただコミュニケーションをとるのではなく、相手を知ろうとするコミュニケーションをとることがなかなかできなかった。周囲の人とコミュニケーションをとらなければ、何も始まらない。想像力が重要だとわかった。それは、一人で想像するのではなく、周囲の人を巻き込んで想像することでアイデアの幅が広がっていき、どのように改善すればしあわせになれるのかを導き出していけるのである。

活動を終えてからの顔合わせの際に、活動中にお世話になった利用者の方が亡くなられたという報告を受けた。出会いがあれば別れもあるということを知った。私たちの出会いに喜んでくれていたという言葉に、人との出会いの重みや命について考えさせられた。

これまでに出会った人、これからさきに出会う人とどのように過ごし、どのようにかかわっていくかを大切にし、さまざまな立場になって考えることで、命を育む場である地域を創り上げていくことが大切であると感じた。

NPO とは、個々の抱える問題から始まり、市民がよりよい社会に暮らし、よりよい地域に変えるための組織である。そういった活動は、周囲にどのように見せるかが重要である。そして、サービスラーニングは、活動中に学んだことを周囲に伝えていくことで、問題意識や解決策をより見つけることができる。これらのことから、私たちが活動を通して NPO について学んだことを周囲に、どのように知らせていくのかが、これからの地域福祉につながるのに重要であることを知った。

2. この活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

孝行の会への訪問を終えてみて、命を支える仕事を経営していく難しさを感じた。その一方で、制度外サービスが、利益を求めず活動する NPO 団体なのだと感じた。そのような目的で活動することにより、介護保険制度で足らない日々の生活支援を独自のサービスとして不十分なサービスを、多くの地域住民に利用してもらうのにお手軽さがあり、地域で支えあうといったことが可能になっているのだとわかった。しかし、NPO 団体が経営難で潰れてしまっては地域住民の生活は充実するどころか悪くなる一方である。それに対して、これからどのように対処するかが課題となるのではないだろうか。

今回活動した際に、介護の現場にはさまざまな問題があることがわかった。孝行の会は介護保険制度にのっとった介護保険部門やこの制度外で行う有償部門の 2 つの分野でサービスを行っている。介護保険部門では、医療行為や家族のいる世帯のサ―ビスには介護保険制度内で行うには制限が厳しく、要介護者の家族への負担が大きくなってしまい、介護疲れになってしまう可能性が高まっているという問題点があるのではないだろうか。また、有償部門では、病院、自宅への送り迎えを行う移送サービスを提供することで、職員の時間の調節、利益が少ないなどといった問題からやむを得ずサービスを止める NPO 団体が多いという。これからの地域の課題になるのではないだろうか。移送サービスを提供する NPO ばかりが頼られ、さらに負担が増してしまい、経営困難から移送サービスを止め、地域住民の過ごしにくい地域になってしまうのではないかと考える。独自のサービス、特定の NPO にしかないサービスを提供するのではなく、ある程度充実したサービスを他の多くの NPO が提供することで、多くの地域住民に利用してもらえ、NPO 同士で支えあっていけるのではないかと考える。

ひとつの NPO が一番ではなく、NPO 同士が地域住民を一番に考えることが重要である。それと同時に、NPO が抱える問題を地域住民内で共有し、介護の現場や高齢者に対する意識を高め、共に考え、近所の人同士で支えあうきっかけを作っていくことが重要であると考える。私も含め地域住民は、行政や他の人に頼めば対策をとってくれる、なんとかしてくれるといった受け身な考えを持つ人が多く、助け合おうという考えが希薄化しているのではないだろうか。こういった地域住民の意識を変え、私たち地域住民も社会資源のひとつとして、地域について考えることが必要である。

少子高齢社会により、子どもや高齢者の分野に多く問題を抱えている。それに対して、NPO 団体が地域の問題に向き合い、解決、支えあっていくことが必要になる。そして、制度だけでは、不十分な点はまだ多くあるため、そういった点を NPO だけでなく地域住民とともに支えあい、補いあっていくことが大切である。